

学力調査等の状況	
<p>第6学年で実施した「全国学力・学習状況調査」では、国語、算数共に平均正答率を上回っている。また、第4・5・6学年を対象とした「児童・生徒の学力向上を図るための調査」では、ほぼ全ての項目で、「当てはまる」と回答した児童の割合が東京都の平均を上回っている。本校が力を入れている既習事項や身に付けた学び方を使って学習を進めることや他者との関わりの中でよりよく課題を解決することにかかわる項目については「当てはまる」と回答した児童の割合が、東京都の平均を5～10%上回っているものが多いという結果となった。</p>	

見えてきた課題	
<p>国語科について誤解分析をすると、「必要な情報を見つけれない」「情報を結び付けて要約できない」ということが分かった。算数科では、基本的な知識を活用することができていない児童の割合が多いことがわかった。また、正答率が5割以下の児童では、他者との関わりに対して否定的に回答しており、学びを調整していけるような交流にするための支援が必要である。</p>	

授業をデザインする8つの取組について	
ICT機器の活用	個別最適な学び、協働的な学びのどちらも実現するために、デジタルドリルの活用や互いの意見を共有したり交流したりできるデジタルツールを授業に取り入れる。自ら考え、深めていくことができる児童を育て、主体的に問題解決に取り組むことができるようにする。
認め合う・学び合う集団の形成	友達との対話を通して、自分の学習状況を把握したり、友達の学び方を知ることによって、自分の学習状況について見通しを修正したりする。
振り返りの設定	目標や学びの進め方について振り返ることで、課題の達成状況を把握したり、自分にとってよかった学びの進め方を次の学習でも生かせるよう整理したりする。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
国語科	「自分の考えを適切に言葉を使って伝える」という課題を解決する過程において、方略を活用し、言葉を手がかりに考えを形成し、相手に伝えることができるようにする。	<ul style="list-style-type: none"> 考えたことや理由を比べながら話し合うことができるようにする。 根拠となる言葉を示しながら、考えを伝えることができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠となる言葉や理由を比べて話し合うことができるようにする。 複数の根拠を結び付けたり、目的に応じて必要な情報を見つけたりと、考えを形成できるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 根拠となる言葉や理由を比べて話し合い、自分の考えの理由付けや根拠を確かなものできるようにする。 文章全体から根拠となる文章を見つけたり、考えを支える根拠として適切であるのか吟味できるようにする。
社会科	問題解決の過程で、社会的事象を比較・分類・関連付けながら社会的な見方や考え方を構築する。また、社会的事象に対する自分の概念を形成し、自分なりの評価や判断をすることで、今後の自分と社会との関わり方を考える。	<p>（中学年からスタートに向けて現時点で意識する指導の重点）</p> <ul style="list-style-type: none"> 家族などの身近な社会的な関わりを通じて、自分の考えや思いを話したり、聞いたりする学習を重点的に行う。 自分の生活や体験について、情報を整理したり、比較分類したりしながら相手に伝える。また、相手に対して自分の考えや意見を伝える学習を重点的に行う。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分の生活との関連を考えて、分かったことを整理したり、発表を行ったりする学習を重点的に行う。 社会生活の基盤となるサービスのしくみや日本の地理環境を調べる。それらの違いや共通点、自分の生活とどのような関わりがあるのかということをもとめたり、分かったことを伝えたりすることを重点的に指導する。 	<ul style="list-style-type: none"> 社会に見られる課題を把握し、その解決に向けた自分の考えや関わり方を考えてまとめたり、相手に伝えたりする学習を重点的に行う。 国の仕組みについて調べる中で、多角的な視点で問題をとらえ、自分の立場を明確にして、考えを伝え合う活動を取り入れる。
算	問題解決の過程で、既習事項と比較したり、多様な考えを分類したり、数学的な表現の方法を関連付けて考えたりすることで、課題の発見、筋道の通った解決、自己の考えの洗練につながる。	<ul style="list-style-type: none"> 具体物を操作するなどして、基本的な知識を身に付けていく。 既習軸を想起する時間を授業の最初に確保し、課題解決に当たっての足場作りを行う。 様々な表現を結び付けて練り上げ 	<ul style="list-style-type: none"> 日常生活との関連を大切にすることで、学習に対する必要感をもって取り組めるようにする。 ノートなどへ考えを表現することを大切にして、思考力を伸ばす素地を作っていく。 	<ul style="list-style-type: none"> 図形の単元では必要に応じて具体物を取り入れて学習を進めることで、図形に対する見方、考え方の多面性を高めていく。 自分の考えを言葉や図を使って友だちに説明する活動を増やすこと

⑪- 2 授業改善推進プラン（中間改善計画）

数 科		ていく活動を通して、数学的な見方考え方を養っていく。	・既習事項を使って自分で解決し、他者の意見を参考にしながら考えを構築できるようにする。	で、答えを導くまでの過程を論理的に整理する能力を高めていく。
理 科	問題解決の過程において、理解への見通しをもたせ、観察や実験を通して、自然事象を比較・分類・関連付けながら考えをすすめ、自分のもっている自然概念を再構築させていく。	(中学年からのスタートに向けて現時点で意識する指導の重点) ・アサガオの栽培など、栽培活動を通して、植物の一生や変化の様子について興味や疑問をもって関わられるようにする。 ・ピオトープなどを活用し、日常生活では感じにくい自然や生き物に触れる機会を作り、生命を大切にする心や生命の不思議を感じられるようにする。	・ピオトープなどの身近な自然に触れる機会を多く作り、興味とともに疑問をもてるように進めていく。そして、他の生き物と比較することで、その特徴や性質を考え、理科的に事象の楽しさを感じられるようにしていく。 ・事象との出会いを大切に、「あれっ?」「どうして?」「どうなっていくんだろう?」という自発的な問いを児童自身に抱かせる中で主体的に問題解決を図らせていく。	・生物単元では、メダカ・ヒト・植物をと比較して考えることで生命の連続性について結び付けて考え、知識となっていくようにする。物理単元では、条件制御を論理立てて行うことを重視し、実験を通して検証する力を高める。 ・問題解決する事象や身近な事象と学習内容を結び付け、自身の自然概念としてとらえる力を高め、地層や天体、水溶液などの考え方を深められるようにする。
各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
生 活 科	問題解決の過程で、様々な情報や体験を比較・分類・関連付けながら、学び方やものの考え方を身に付け、主体的・創造的・協働的に問題を解決する能力を育成し、さらに学んだことから自己の生き方を考えることができるようにする。	(1年)人々や社会及び自然に親しく関わり、それらを直接的、間接的に感じ取る具体的な活動を行う中で、感じたことや考えたことを伝え合い、交流する活動を重点的に行う。 (2年)活動を繰り返す中で、その変化や楽しさを感じ取れるようにする。活動を行うことで生まれる充実感、目的や目標に到達したことで得られる達成感や、友達と共に活動することで得られる一体感、自己変容に気付けるようなまとめや振り返りを重点的に行う。	/	/
音 楽 科	児童が豊かに音楽に関わり、表したい音楽を表現するために必要な技能を身に付けていく授業過程を大切に。学習のつながり・他者とのつながりを組み入れた授業を展開し、やがて社会や生活や人生に生かされる音楽科の授業を目指す。	・音あそびを通して、音楽づくりの発想を得たり、どのように音を音楽にしていかにして思いをもつたりする学習に重点をおく。 ・曲想の感じ取りを深めたり、必要な技能を身に付けたりしながら、感じ取ったことを基にいろいろな表現の仕方を体験できるような学習に重点をおく。	・友達と関わりながら表現する活動を通して、他者理解を深められるようにする。 ・思いや意図を伝え合ったり、実際に音で試すことを繰り返したりしながら、表現を工夫し、音楽をつくっていく学習に重点をおく。	・曲の特徴にふさわしい表現を工夫し、自分の思いや意図が聴き手に伝わるよう表現できるようにする。 ・工夫した表現を互いに聴き合いながら、それぞれの表現のよさを認め合うような場を設定する。
図 工 科	造形的な視点を比較・分類・関連付けながら自分の感覚や行為を通して理解し、主体的に表現を工夫していきけるようにする。また、他者の表現や考えを認め尊重し、生活や社会の中で豊かに形や色などと関わっていきけるようにする。	(1年)造形遊びをする活動を通して、友達と関わりながら次の活動を考えたり、一度つくった形を崩し、材料に触れながら活動を考えたりと、発想や構想を繰り返しながら、どのように活動するか考える学習に重点をおく。 (2年)絵や立体、工作に表す活動を通して、形や色などを楽しみ、周りの友人と関わり合いながら、自分の思いをはっきりさせたり、つくりつつある形や色から発想を広げたりする学習に重点をおく。	(3年)造形遊びをする活動を通して、自分の感覚や気持ちを大事にしながら思いをつくままに試みたり、一人一人が思い付いたことを出し合い、発想を刺激し合いながらグループでどのように活動するか考えたりする学習に重点をおく。 (4年)絵や立体、工作に表す活動を通して、自分の思いに合うあらゆる組み合わせや見直し、順序などを考える学習に重点をおく。	(5年)造形遊びをする活動を通して、活動の過程で生まれる新たな発想を大切にしたり、考えや思いの方向性を見直し直したりしながら、どのように活動するか考える学習に重点をおく。 (6年)絵や立体、工作に表す活動を通して、児童自身が主題を発想することを大切にし、自分の考えや活動を問い直しながら主題の表し方や計画を考える学習に重点をおく。

⑪- 2 授業改善推進プラン（中間改善計画）

家庭科	衣食住などの自分の生活における課題を生活と関連付けながらつかみ、比較実験や調べる活動、実習などを通して追究し、日常生活で活用できる能力・態度を養う。			・日常生活を見直して課題を設定し、計画、実践、評価・改善という一連の学習活動を重視し、問題解決的な学習を重点的に進める。実践発表会などを設け、取り組んだことを表現する場をつくる。
体育科	自分や友達の動きを比較したり関連付けたりしながらよりよい動きや表現したい感じを判断し表現することを通して技能を身に付けたり、運動に親しんだりする。	・運動遊びをする場や練習の仕方などを自らの力に応じて工夫したり、選択したりすることを示して、自分に合った楽しみ方を見付けられるようにする。 ・自分が工夫したことを、教師や友達、保護者等に言葉で説明すること、身振りなど動作をしながら表現することを行う。	・自己の能力に適した課題を見付け、その課題の解決のための活動を選び取り組めるようにする ・動きのできばえを友達と見合い、言葉で伝えたりするような場を設定する。	・自己やグループに適した課題を設定して、解決のための活動を選ぶよう、複数の場の中から自己の課題に適した練習の場を選ぶような指導を重点的に行う。 ・グループの中で互いの役割を決めて観察し合ったり、学習カードやICT機器を活用したりして、つまづきやこつ、分かったことなどを文字や図で書いたり、発表したりして、仲間やグループに伝える指導を重点的に行う。
外国語科	体験的な活動を通して、言語や文化への理解を深めていく。また、日本語と外国語を比較しながら違いに気付かせ、基本的な表現に親しませ、児童が積極的にコミュニケーションを図ることのできる力を身に付けていく。			(5年)身近で簡単な事柄について、音声で十分に慣れ親しんだ外国語の語彙や基本的な表現を推測しながら読んだり、語順を意識しながら書いたり、聞いたり話したりして自分の考えや気持ちなどを伝え合う学習を重点的に行う。 (6年)自分の考えと、コミュニケーションする相手の考えを比較したり、新たな考えを知識として取り入れたりしながら、自分の考えを再構築できるような学習を取り入れるとともに、自分の考えの変容について、学習のまとめを行ったり、振り返りを行ったりする。

各教科における課題を改善するための指導の重点				
	年度当初に設定した重点	低学年	中学年	高学年
総合的な学	地域・自然・人とのかかわりなど、実社会・実生活の中から課題を見出し、体験的・主体的・協働的に探究する学習を通して、問題解決の力と学び合いのスキルを身に付けさせる。また、探究的な学習の過程で、コンピュータや情報通信ネットワークなどを適切かつ効果的に活用できる環境を整える。		・体験したことや収集した情報を、言語により分析したりまとめたりする学習を重点的に行い、自らの学びを意味づけたり価値付けたりして自己変容を自覚できるようにする指導を重点的に行う。 ・「考えるための技法」を活用し、集めた情報を共通点と相違点に分けて比較したり、視点を決めて分類したり、体験したことや収集した情報と既存の知識とを関連付けたり時間軸に沿って順序付けたりする学習に重点的に行う。	・興味・関心別のグループ、表現方法別のグループ、調査対象別のグループなど多様なグループ編成をしながら、児童自身の興味・関心に沿った学習に重点を置く。 ・タブレット端末を活用して調べたことをまとめ、保護者や地域の人々に公開する機会をもち、児童が社会の一員であることを自覚したり、学習意欲を向上させたりできるような指導に重点を置く。

⑪- 2 授業改善推進プラン（中間改善計画）

習 の 時 間				
特 別 の 教 科 道 徳	<p>教科書を中心に指導計画を立て、授業の中で議論する時間を意識的に取り入れ、自己の生活と関連付けながら、自尊感情を育み自他の生命を尊重する態度を養うとともに、人権意識や規範意識、公共心を育てる。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 紙芝居や、人形やペープサートを使った劇、動画などを活用しながら、想像をふくらませ、考えたことや感じたことを自由に伝え合える学習を行う。 ペアでの対話やグループによる話し合いを取り入れ、児童相互の考えを深め合う学習を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ノートやワークシートを活用し、考えを深めたり、整理する機会として、書く活動を取り入れる。継続的に行うことで、自己の変容にも気付けるよう指導する。 即興的に演技する役割演技の工夫、動きや言葉を模倣して理解を深める動作化の工夫などを取り入れ、自己の生活と関連して考えられるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 考えを出し合う、まとめる、比較するなど、目的に応じて効果的に話し合いの場を設定する。 討議形式で話し合いを進め、児童相互の考えを深めたり、認めたりできるような学習に重点をおく。
特 別 活 動	<p>学級活動、委員会活動、クラブ活動、縦割り班活動や誕生会会食などの異学年交流など自主的・実践的な集団活動を通して、人間関係をよりよく形成する力を身に付けるとともに、自己の生き方についての考えを深め、自己実現を図ろうとする態度や社会への参画意識を養う。</p>	<ul style="list-style-type: none"> 話し合いの約束に沿って友達の見をよく聞いたり、自分の意見をよく聞いたり、自分の意見を言えるようにしたりする指導に重点をおく。 当番や係活動など、小集団の中で助け合いながら活動ができるようにする。 	<ul style="list-style-type: none"> 理由を明確にして意見を言えるようにしたり、異なる意見も受け入れられたりして、合意形成を図ることができるような指導に重点をおく。 計画や運営、準備などにおける役割を分担し、協力し合って集会活動をつくる指導に重点をおく。 	<ul style="list-style-type: none"> 児童自身が活動計画を作成し、話し合いの方法などを工夫して効率的、計画的に運営することができるような指導に重点をおく。 児童会活動やクラブ活動、係活動や集会活動など、創意工夫のできる活動にし、振り返りを行いながら、よりよい活動にできるような指導に重点をおく。
外 国 語 活 動	<p>英語推進教員を中心にALTとの連携型・担任単独型両方の指導の充実を図ることを通して、児童のコミュニケーション能力の向上を図り、国際社会を積極的に生きていく力や外国語で交流を図ろうとする態度を育てる。</p>		<p>(3年) 伝え合う目的や必然性のある場面でのコミュニケーションを大切に、相手の思いを想像し、伝える内容や言葉、伝え方を考えながら、相手と意味のあるやり取りを行う学習を重点的に行う。</p> <p>(4年) どうすれば相手により伝わるかを思考しながら、表現する内容や表現方法を自己選択し、尋ねたり応えたりする学習を重点的に行う。</p>	